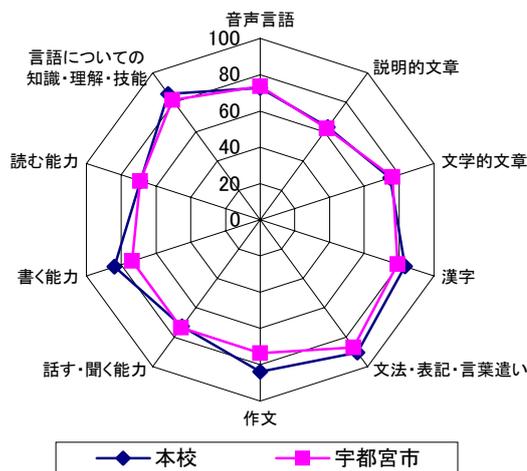


宇都宮市立上河内中学校第2学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	72.7	73.7
	説明的文章	63.0	62.1
	文学的文章	74.8	76.1
	漢字	83.3	79.0
	文法・表記・言葉遣い	90.5	87.0
	作文	83.8	73.5
観点別	話す・聞く能力	72.7	73.7
	書く能力	83.8	73.5
	読む能力	68.9	69.1
	言語についての知識・理解・技能	85.7	81.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (72.7%)	・今年度の状況は本市をやや下回っている。指導者の話や友人の発表をよく聞く力が弱いというのが現状である。指示を1回で聞き取る集中力が要求される。また1年次より、活発に発言し、そのことについての同意や反論する力が弱くなっているように思われる。このことは全国の中学2年生にも言えることではないかと考察する。	・本来の力を持っている生徒の発言を活発化させる動機付けをさせる指導者の教材研究を充実させるとともに、しつけもきちんとさせていきたい。間違っているのではないかとこの恥ずかしさを恐れず、基本的な発問や高度な発問について、1単位時間により多くの生徒の発言をうながしたい。そして、その発表について自分はどうか考えるかという補助発問もしていきたいと考えている。
説明的文章 (63.0%)	・中学生段階では、説明的文章に触れる機会がそう多くないと思われる。説明的文章のおもしろさに気づく前に拒否反応をしてしまいがちであった。段落ごとの要約、段落と段落の関係、具体例、そして筆者の主張をつかませる指導を継続しているところである。	・教材以外の簡単な説明的文章を導入に使用し、尾括弧の文章が多いことに気づかせ、主張を通すための具体例のあげかたや問題提起が何なのかよりの確につかむ訓練を数多く積ませたいと考えている。
文学的文章 (74.8%)	・生徒は文学的文章に触れることが好きである。ただ、主人公の心情に触れて、それが何がきっかけでどのように変化していったのかを読み取る力がやや劣る。感じていながらもそれをどう表現したらよいかのスキル学習が不足していると思われる。	・行動描写、心情描写、情景描写にそれぞれことなつた線を引かせ、整理していく訓練をさせていきたい。最初は時間がかかると思われるが、何回かやっていくにつれてそのことが頭の中で自然と整理されていくことがたいせつである。今後は多くの文学的文章に触れさせていきたい。
漢字 (83.3%)	・漢字の力は、本市より上回っており、良好といえる。小テストを頻繁に行った成果の一つだと思われる。また日頃の読書への取り組み状況も当初の目標を達成できていると分析できる。	・辞書を引く習慣があまりないと思われるので、授業中も自由に辞書を引ける環境を整えたい。また漢字の構造理解及び漢和辞典を使った語彙力向上にも取り組みたい。引き続き漢字の小テストを行っていく。
文法・表記・言葉遣い (90.5%)	・本校は、比較的、日頃の言語環境が整っている。今年度は7つの品詞に取り組んできたところであるが、知識・理解が良好であることが、定期テストや小テストなどからうかがわれる。	・日本語の乱れが言われて久しいが、正しい言葉遣いができる社会人の育成のため、常に問題提起し、活用・活用の種類・主語述語のねじれなどを是正していきたい。そのことが豊かな表現力の育成になうと考えている。
作文 (83.8%)	・本市を上回った結果で良好である。作文を書く原動力となつたのは、授業ごとに行われた読後の感想文を書くことである。またよく書かれている生徒の作文発表も他の生徒の刺激になったようである。ただ、文体の不統一及び原稿用紙の書き方、主・述のねじれ及び漢字表記などこになった点である。	・作文を書くパターン熟知や語彙力を向上させるために、今後とも新聞等の名文を紹介し、視写を継続させていきたい。また学級活動と連携し、行事ごとの体験文を書かせ、添削を試みたいと考えている。添削は、自分の書いた作文の良し悪しを実感できるよい機会であると考えている。